

都市再生整備計画

ようこくえきしゅうへん
暘谷駅周辺地区

おおいた ひじまち
大分県 日出町

平成23年 3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大分県	市町村名	日出町	地区名	陽谷駅周辺地区	面積	50 ha
-------	-----	------	-----	-----	---------	----	-------

計画期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標
【大目標】「日出町の顔」「交通結節点」「集い交流する賑わいの空間」となる中心市街地の利便性の高い都市環境の向上を図り、快適で個性ある生活都心づくりを目指す。

- 目標1: 駅利用者の利便性や安全性を向上し、交通結節点としての機能をもった都市環境の形成を図る。
 目標2: 集い・交流する賑わいの空間の創出から、駅前交流人口の拡大を図るとともに、歴史的文化遺産を活かした観光交流への拡大も図る。
 目標3: 買い物や生活サービスの利便性を確保するための、施設整備をおこない、中心市街地全体の活性化を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

本地区は、平成9年の大分県立日出陽谷高校の移転に伴い、高校跡地(約3ha)を中心としたJR陽谷駅周辺の中心市街地の有効利用が重要な課題となってきた。現在、日出町には町の玄関や顔となる明確な中心核が不明瞭であることから、日出陽谷高校跡地を有効に取り込みながら中心市街地整備をおこなっていく必要がある。さらには、日出町の成り立ちから、陽谷城址を中心とした海岸線の古い町並みや歴史的遺産等、風情ある空間が残存しており、国道10号を軸として活用した山側の「新しい街並み」(土地区画整理事業)と「歴史的風情ある街並み」の二面性を持っている。このような中、その中間に位置する既商店街の衰退化が進む傾向にあり、今後は、陽谷駅周辺の役割である「日出町の顔」、「交通結節点」「集い、交流する賑わいの空間」を基本に置き「まちづくり」を考えていかなければならない。また、日出町総合計画においても、陽谷駅を中心とした市街地整備及び陽谷城址を中心とした歴史的街並み景観を保存する地域として位置づけられており、「新しい街並み」と「歴史的風情ある街並み」の融和を図りながら快適で個性あるまちづくりを行ってきたい。

課題

- ・既存商店街の衰退化。
- ・公有地の企業立地に伴い、周辺整備が遅れている。
- ・当町においては、町の玄関や顔となる明確な中心核が不明。
- ・駅利用者の踏切付近での停車による危険性。

将来ビジョン(中長期)

本地区は日出町総合計画、日出町都市計画マスタープランにおいて、陽谷駅を中心とした中心市街地整備地区及び陽谷城址を中心とした歴史的街並み景観を保存する地域として位置づけられており、日出町の新しい顔となる印象的な駅前空間をはじめとして、JR陽谷駅を拠点に人々が交流する良好な市街地空間を図っていくとともに、歴史的街並みとの融和を図りながら、交流と活気及び地域住民に愛着と誇りを持てるまちづくりを推進する。

目標を定量化する指標

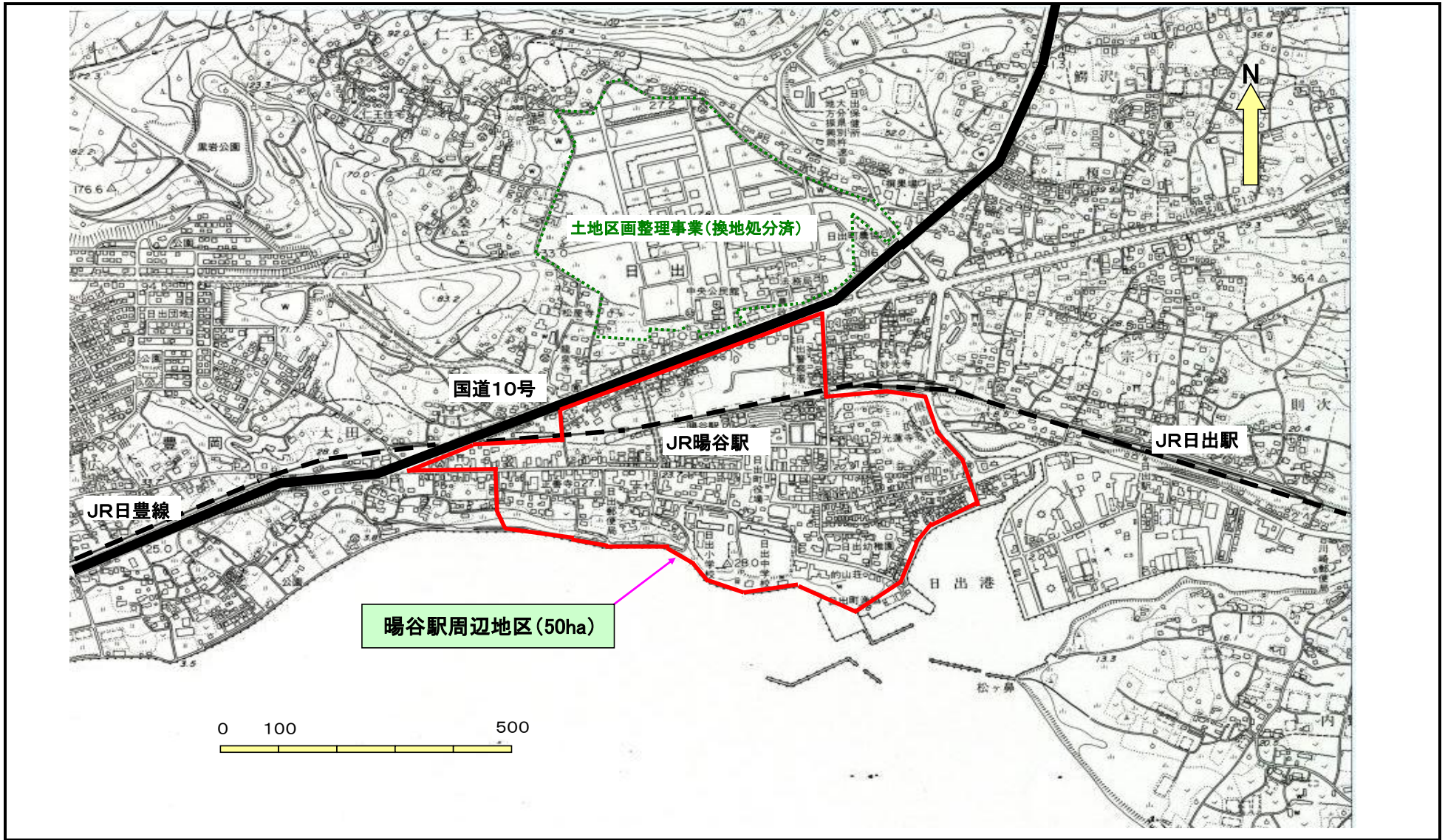
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目 標 値	
				基準年度	目標年度	
歩行者・自転車通行量	人/日	町道陽谷駅北口線での、7時～19時まで(12時間)の歩行者数及び自転車通行数	駅前広場や自由通路の整備により、歩行者の利便性が図られるとともに、企業立地による買い物や生活サービスの利便性の確保により、交流人口の拡大につながるため、歩行者数・自転車通行量を指標とする。	253	H22	H27
車道停車数	台/日	町道小路二の丸線での、自動車送迎等で停車している車の台数(午前6時～8時、午後4時～7時 5時間)	駅前広場の整備により、駅利用者の安全性、利便性が図られることにより、陽谷駅の踏切付近に停車する自動車送迎の減少につながるため、停車台数を指標とする。	100	H22	H27
自由通路利用者数	人/日	自由通路の利用者数(1日当たり)	自由通路の整備により、駅利用者の利便性の向上や、生活サービスの利便性確保につながるため、自由通路の利用者数を指標とする。	—	H22	H27
陽谷駅乗降客数	人/日	JR陽谷駅乗降客数(1日当たり)	JR陽谷駅を拠点とする交通結節点、人々が集い・交流する賑わいの空間を図ることを目標とする。乗降客数の増加により、区域全体の交流及び集いの指標とする。	1,620	H21	H27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 「交通結節点」・「まちの顔」となるシンボル空間の形成。 ○駅舎を東側へ移設し、駅前広場や自由通路等を整備することにより、利便性の向上や交通結節点としての役割を高め、まちの顔となる核を形成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(基幹事業／南北駅前広場) ・地域生活基盤施設(基幹事業／駐車場) ・高次都市施設(基幹事業／自由通路) ・(関連事業／JR駅舎移築事業)
<p>整備方針2 「集い・交流する」賑わいの空間の形成。 ○企業立地による集客の向上とともに、駅前広場の整備、活用やコミュニティー施設の整備により、町民及び観光客が集い・交流する賑わいの空間を形成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(基幹事業／南北駅前広場) ・高次都市施設(基幹事業／自由通路) ・(関連事業／コミュニティー施設建設事業)
<p>整備方針3 駅周辺の利便性・安全性の確保。 ○駅前駐車場や歩行者道路、自由通路の整備をおこない、利便性や移動性を高める。 ○町道寺町線の新設により、生活道路としての利便性を高めるとともに、中心地への移動性を高める。 ○暁谷駅周辺の排水施設の機能改善を図り、利便性、安全性を確保する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活基盤施設(基幹事業／南北駅前広場) ・地域生活基盤施設(基幹事業／駐車場) ・高次都市施設(基幹事業／自由通路) ・(関連事業／道路改良事業／町道寺町線) ・(関連事業／排水施設整備事業)
<p>その他</p> <p>○既存商店街の活性化</p> <p>・当地区は、既存商店街を含み、国道10号を軸として活性化している山側の新しい市街地(土地区画整理事業)と、海岸側の歴史的風情のある地区との中間に位置している。しかしながら、既存商店街の衰退化が進む傾向にあり、当地区を整備することにより、人々の「流れ」を創り、既存商店街の活性化を図る。</p>	

都市再生整備計画の区域

暘谷駅周辺地区(大分県日出町)	面積	50 ha	区域	日出町中央、本町、八日市、南浜、北浜一部、若宮一部、堀一部、佐尾一部、西八日市一部
-----------------	----	-------	----	---



暘谷駅周辺地区(2期)

(大分県日出町)

- 計 画 期 間 平成 23 年度～27 年度
- 面 積 50.0ha
- 交付対象事業費 749 百万円
- 町人口 28,610 人 (地区内人口 1,828 人)

ポイント 「まちの顔」、「交通結節点」、「集い、交流する賑わいの空間」としてのまちづくり

地区概要 暘谷城趾を中心とした海岸線の古い町並みや歴史的遺産等、風情ある空間が残存しており、歴史的街並みとの融和を図りながら、まちの玄関や顔としての JR 暘谷駅周辺の中心市街地の有効利用が必要である。

目 標 日出町の新しい顔となる印象的な駅前空間をはじめとして、JR 暘谷駅を拠点に人々が交流する良好な市街地空間を図っていくとともに、歴史的街並みとの融和を図りながら、交流と活気及び地域住民に愛着と誇りを持てるまちづくりを目指す。

指 標 駅前広場、自由通路、駅前駐車場 等の交通結節点としての整備を行い、暘谷駅前の歩行者・自転車通行量の増加、車道停車数の減少、自由通路利用者数、暘谷駅乗降客数の増加を指標とした。

歩行者・自転車通行量	253 (H22)	→	400 (H27)
車道停車数	100 (H22)	→	50 (H27)
自由通路利用者数	— (H22)	→	1,000 (H27)
暘谷駅乗降客数	1,620 (H21)	→	1,720 (H27)

事業内容 基幹事業(409.5 百万)

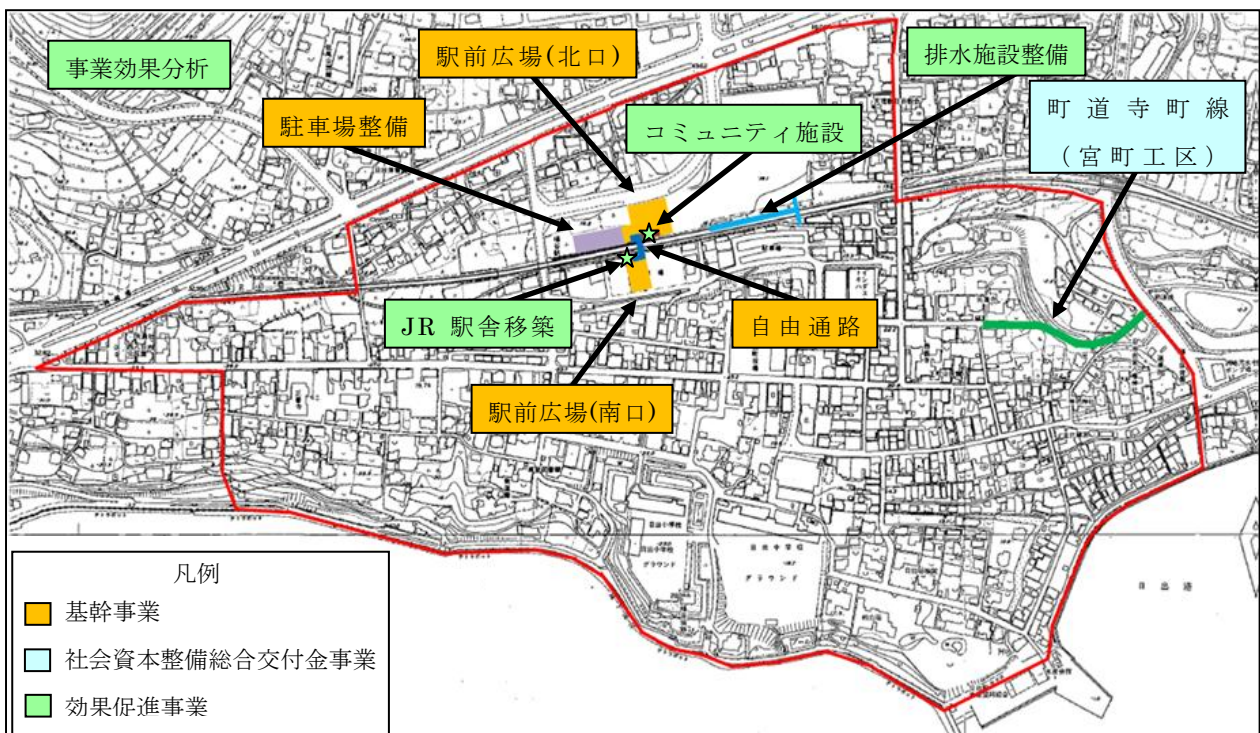
- 駅前広場(2ヶ所、3,500m²) ・自由通路(幅員延長 22m)
- ・駐車場(990m²)

社会資本整備総合交付金事業(232 百万)

- 道路(幅員 7m、延長 200m)

効果促進事業(107.5 百万)

- コミュニティ施設(1ヶ所) ・JR 駅舎移築(1ヶ所)
- ・排水施設整備(延長 130m) ・事業効果分析



地区の現況と課題

本地区は、平成9年の大分県立日出暘谷高校の移転に伴い、高校跡地（約3ha）を中心としたJR暘谷駅周辺を中心市街地の有効利用が重要な課題となってきた。現在、日出町には町の玄関や顔となる明確な中心核が不明瞭であることから、高校跡地を有効に取り込みながら中心市街地整備をおこなっていく必要がある。

さらには、日出町の成り立ちから、暘谷城趾を中心とした海岸線の古い町並みや歴史的遺産等、風情ある空間が残存しており、国道10号を軸として活用した山側の「新しい街並み」（土地区画整理事業）と「歴史的風情ある街並み」の二面性を持っている。

このような中、その中間に位置する既商店街の衰退化が進む傾向にあり、今後は、暘谷駅周辺の役割である「まちの顔」、「交通結節点」、「集い、交流する賑わいの空間」を基本に置き「まちづくり」を考えていかなければならない。

基幹事業の特徴

「交通結節点」・「まちの顔」となるシンボル空間の形成

南北駅前広場、自由通路や駐車場を整備することにより、利便性や移動性の向上や交通結節点としての役割を高め、まちの顔となる核を形成する。

社会資本整備総合交付金事業の特徴

既存商店街の活性化

町道寺町線（宮町工区）の整備を行うことで生活道路としての利便性を高めるとともに、暘谷駅周辺市街地への移動性の向上を図る。

効果促進事業の特徴

「集い・交流する」賑わい空間の形成

駅利用者や交通結節点としての利便性を確保するとともに、休息の場や地域コミュニティの場ともなる施設を建設し、駅周辺機能の向上を図る。

駅周辺の利便性・安全性の確保

JR 駅舎を移築し、駅利用者の利便性の向上を図るとともに企業立地候補場所である駅周辺公有地の排水機能が不十分であるため、施設整備を行い土地利用の向上につなげ市街地の活性化を図る。

計画策定プロセス

本地区は、昭和62年に当時に作成したJR暘谷駅を中心とした「日出町中心市街地基本計画」を基より、平成18年度から平成22年度にかけて暘谷城趾周辺も含め、都市再生整備計画において道路整備や景観整備などをおこなってきたところである。

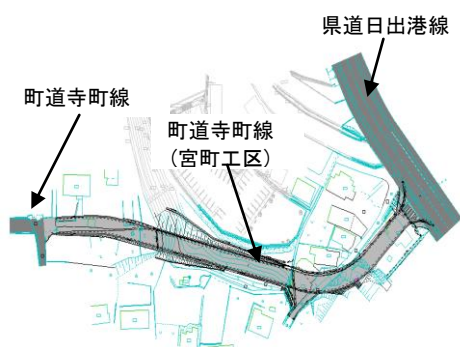
しかしながら、さらなる市街地の活性化を図るためには、暘谷駅周辺機能の向上が必要不可欠であり、今後のまちづくりや土地利用の向上へつなげていくよう本計画を策定した。



▲未利用となっている日出暘谷高校跡地



▲自由通路（完成イメージ図）



▲町道寺町線（宮町工区）平面図



▲地域コミュニティセンター
(完成イメージ図)

暁谷駅周辺地区(大分県日出町) 整備方針概要図

目標	[大目標]: 緑、水、海などの自然や、歴史的文化遺産を活かすとともに、中心市街地の利便性の高い都市機能の向上により、快適で個性ある生活都心づくりを目指す (目標1): 駅利用者の利便性や安全性を向上し、交通結節点としての機能をもった都市環境の形成を図る (目標2): 集い交流する賑わいの空間の創出から、交流人口の拡大を図るとともに、歴史的文化遺産を活かした観光交流への拡大も図る (目標3): 買い物や生活サービスの利便性を確保するための、施設整備をおこない、中心市街地全体の活性化を図る	代表的な指標	歩行者・自転車通行量 (人/日)	253 (H22年度) → 400 (H27年度)
			車道停車数 (台/日)	100 (H22年度) → 50 (H27年度)
			自由通路利用者数 (人/日)	— (H22年度) → 1,000 (H27年度)
			暁谷駅乗降客数 (人/日)	1,620 (H21年度) → 1,720 (H27年度)

